

2012年3月期第3四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

【連結業績サマリー】 第3四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円 (単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期(3Q)			第3四半期(累計)			通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	457	30	7%	1,326	91	7%	1,740	121	7%	1,740	0
水産	197	1	1%	524	-16	-3%	655	-13	-2%	655	0
畜産	205	-9	-4%	580	-18	-3%	735	-48	-6%	735	0
低温物流	392	29	8%	1,140	76	7%	1,500	106	8%	1,500	0
不動産	12	-5	-29%	38	-14	-27%	51	-15	-23%	51	0
その他	15	-2	-13%	43	-4	-8%	60	-2	-4%	60	0
調整額	-53	1	-	-161	5	-	-221	-6	-	-221	0
売上高合計	1,225	46	4%	3,491	120	4%	4,520	142	3%	4,520	0
加工食品	16	-1	-8%	42	-1	-2%	50	4	8%	50	0
水産	2	-2	-54%	6	-4	-44%	6	0	1%	6	0
畜産	3	0	19%	6	3	114%	6	2	55%	6	0
低温物流	26	-0	-1%	62	-3	-4%	73	0	0%	73	0
不動産	6	-4	-39%	18	-10	-36%	21	-15	-41%	21	0
その他	1	-1	-41%	3	-1	-16%	4	-0	-4%	4	0
調整額	0	-0	-	0	1	-	0	2	-	0	0
営業利益合計	54	-8	-13%	137	-14	-9%	160	-7	-4%	160	0
経常利益	51	-9	-15%	129	-17	-12%	149	-12	-8%	149	0
当期純利益	32	-4	-11%	74	-13	-15%	81	41	100%	81	0

ROE				7%	4%		7%
EPS	24円	-4円	-13%	27円	14円	109%	27円

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2011年11月1日に発表した見込

1. 第3四半期の実績

- ①売上高: 上期に引き続き、加工食品と低温物流が全体を牽引し前年比4%の増収。
- ②営業利益: 不動産の賃貸ビルの契約更改による影響と水産の減益が響き前年比8億円の減益。

2. 通期見込は前回見込を据え置く。なお、下期の震災影響は見込まない。

3. 自己株式の取得・・・1月末時点(累計)で中計目標株数1,500万株のうち1,379万株を取得。

【加工食品事業】 第3四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第3四半期(3Q)			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高計	457	30	7%	1,326	91	7%	1,740	121	7%	1,740	0
	家庭用調理品	131	8	6%	389	33	9%	514	34	7%	514	0
	業務用調理品	223	8	4%	621	30	5%	805	34	4%	805	0
	健康価値	11	0	2%	40	3	7%	54	6	12%	54	0
	その他	92	14	19%	276	26	10%	367	48	15%	367	0
	営業利益	16	-1	-8%	42	-1	-2%	50	4	8%	50	0

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2011年11月1日に発表した見込

◆第3四半期の状況

1. 全体

売上高は前年比7%の増収。営業利益は原材料・仕入価格の上昇やGFPTニチレイ(GFN)の稼働遅れによる影響を増収効果や生産性改善などでカバーし前年比1億円の減益。

2. 家庭用調理品

前年度の下期より増収基調となったため、上期に比べ伸び率は鈍化したが、依然マーケットを上回って推移し前年比6%の増収。チキン加工品、コロッケが好調。

3. 業務用調理品

主力のチキン加工品が全体を牽引し前年比4%の増収

4. 健康価値

ウェルネス食品が減収となったが、アセロラ原料販売が順調に推移し前年比2%の増収。

5. その他

GFNが当年度から欧州及びタイ国内向けの販売を開始したことや農産加工品が好調だったことにより、前年比19%の増収。

◆通期の状況

- 第3四半期の増収傾向は第4四半期も継続の見込。
- 原材料のコスト上昇は下期に入り落ち着いており、通期見込の範囲で収まる予定。
- 通期見込は売上高、営業利益共に前回見込を据え置く。

◆主要施策の進捗状況

【GFNの状況】

- GFNの生鳥処理羽数は、予定通り1月で10万羽／日に到達。
- 欧州向けのムネ肉加工品の販売は順調に進捗しており想定した売上高4億円は達成の見込。
- 第4四半期は立上げ直後だった前年度より稼働が改善しており赤字幅は縮小する。

【水産・畜産事業】 第3四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第3四半期(3Q)			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	197	1	1%	524	-16	-3%	655	-13	-2%	655	0
	営業利益	2	-2	-54%	6	-4	-44%	6	0	1%	6	0
畜産	売上高	205	-9	-4%	580	-18	-3%	735	-48	-6%	735	0
	営業利益	3	0	19%	6	3	114%	6	2	55%	6	0

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2011年11月1日に発表した見込

【水産事業】

◆第3四半期の状況

売上高は前年比1%の増収。営業利益は2億円の減益。ユーザー向け商材の取扱が順調に増加した。えびやたこなど多くの魚種で不漁による品不足が続き国内相場も上昇したが、産地価格上昇を売価に転嫁しきれず減益となった。

◆通期の状況

通期見込は売上高、営業利益ともに前回見込を据え置く。厳しい環境が続くが、引き続き慎重な買い付けに徹し在庫リスクを最小化する一方、ユーザールート向けに最適加工度の商材提案や密着営業を推進する。物流費等の経費削減にも取り組む。

【畜産事業】

◆第3四半期の状況

売上高は前年比4%の減収。営業利益は前年並み。輸入チキンの大量搬入、原発問題や暖冬による消費の落ち込みにより食肉全般の国内相場は低迷したが、調達管理を徹底するとともに加工品の販売に注力し、利益は前年並みを確保した。

◆通期の状況

通期見込は売上高、営業利益ともに前回見込を据え置く。輸入チキンの国内相場下落による収益悪化が続くが、引き続き採算重視の販売に徹するとともに、純和鶏などのこだわり素材やユーザールート向けの加工品の販路拡大に取り組む。

【低温物流事業】 第3四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

		第3四半期（3Q）			第3四半期（累計）			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	392	29	8%	1,140	76	7%	1,500	106	8%	1,500	0
	物流ネットワーク	217	15	7%	631	44	7%	828	59	8%	828	0
	地域保管	123	6	5%	356	15	5%	461	24	5%	461	0
	海外	49	8	18%	144	23	19%	191	27	16%	191	0
	その他・共通	3	1	52%	10	-7	-41%	20	-4	-16%	20	0
	営業利益計	26	-0	-1%	62	-3	-4%	73	0	0%	73	0
	物流ネットワーク	10	1	7%	23	-1	-4%	28	2	7%	28	0
	地域保管	15	-2	-11%	37	-3	-8%	42	-1	-1%	42	0
	海外	2	1	105%	8	3	64%	10	3	43%	10	0
	その他・共通	-2	-0	8%	-5	-2	39%	-7	-4	155%	-7	0

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2011年11月1日に発表した見込

◆第3四半期の状況

- 全体
売上高は前年比8%の増収。営業利益は前年並みで推移。
- 物流ネットワーク
7%の増収、1億円の増益。TC（通過型センター）の新設効果が売上・利益両面に寄与。
- 地域保管
東扇島DCを初めとする新設DCの稼働が寄与し5%の増収。一方、償却負担増や在庫率が回復したものの荷動きが悪化したことなどにより2億円の減益。
- 海外
18%の増収、1億円の増益。為替影響はあるが前期を上回って推移。

◆通期の状況

- 全体
通期見込は売上高、営業利益共に前回見込を据え置く。

◆主要施策の進捗状況

- 物流ネットワーク
第4四半期より新設TCが2拠点稼働し、全体で28拠点に到達予定。
- 地域保管
東扇島DCの集荷が進み在庫率は40%に到達。今後も引き続き作業収支の改善や貨物構成の見直しを行い、収益性の改善を進める。
- 海外
引き続き売上高、営業利益共に前期を上回って推移しているものの、足許では長引く金融不安の実体経済への影響が懸念される。

2012年3月期第3四半期連結バランスシートの変動要因

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	11/12	11/3	増減		【主な要因】
〔資産の部〕					
流動資産	1,221	1,031	190	①	① 売上の増加や季節的要因により売掛金およびたな卸資産が増加。震災後に手元流動性確保のため積み増した現金及び預金58億円を取り崩し。
固定資産	1,735	1,813	-78	②	
資産の部合計	2,957	2,845	111		
〔負債・資本の部〕					
流動負債	1,061	1,103	-41	③	② 前期の設備投資の減価償却も進み有形固定資産が47億円減少。
固定負債	715	564	150	③	
負債の部合計	1,776	1,668	108		③ 季節的要因などにより買掛金が62億円増加。長期の安定資金確保のため社債を200億円発行し短期資金を返済。
純資産の部	1,180	1,177	3		
(うち株主資本)	1,167	1,150	17		
有利子負債	1,012	969	42	④	④ 年末需要対応のための営業資金が増加
(うちリース債務除く)	783	724	59		
科目	11/12	10/12	増減		⑤ 第3四半期の設備投資の主なもの 低温物流 東扇島DC2期棟
設備投資額	77	131	-54	⑤	
(うちリース資産除く)	61	116	-55		
減価償却費	111	103	8		
(うちリース資産除く)	83	75	7		

2012年3月期第3四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第3四半期(10-12月)					通期		
		11/12	10/12	増減			見込	前年同期間 比増減	前回見込 比増減
【営業外収支】		-2	-1	-1	【営業外収支】		-11	-5	-
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-2	-2	+0	金融収支		-10	+0	-
【特別損益】		+1	-1	+2	【特別損益】		-7	+65	-
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益		+3	+1	+2	固定資産売却益		+7	-2	-
災害による損失	①	-0	-	-0	災害による損失	①	-3	+28	-
資産除去債務会計 基準適用影響額	②	-	-	-	資産除去債務会計 基準適用影響額	②	-	+7	-
投資有価証券評価 損	③	-1	-0	-1	投資有価証券評価 損	③	-6	-6	-
事業所閉鎖損失		-0	-2	+2	事業所閉鎖損失		-1	+2	-
					受取補償金	④	-	-30	-
					退職給付制度改定 損	⑤	-	+66	-

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2011年11月1日に発表した見込

- ① 東日本大震災に伴う特別損失
- ② 資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失
- ③ 株価下落に伴う特別損失

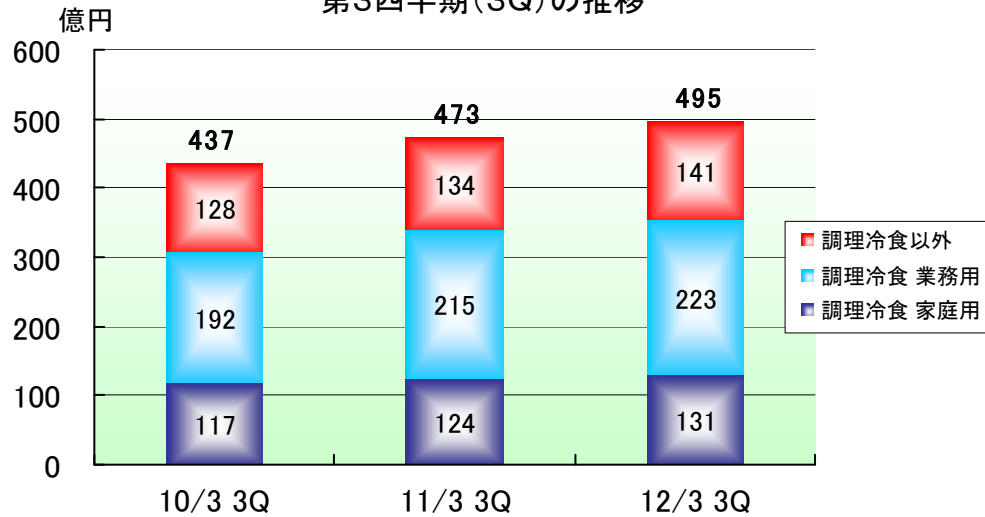
- ④ 区分地上権の設定に伴う特別利益
- ⑤ 退職給付制度の変更に伴う特別損失

参考データ

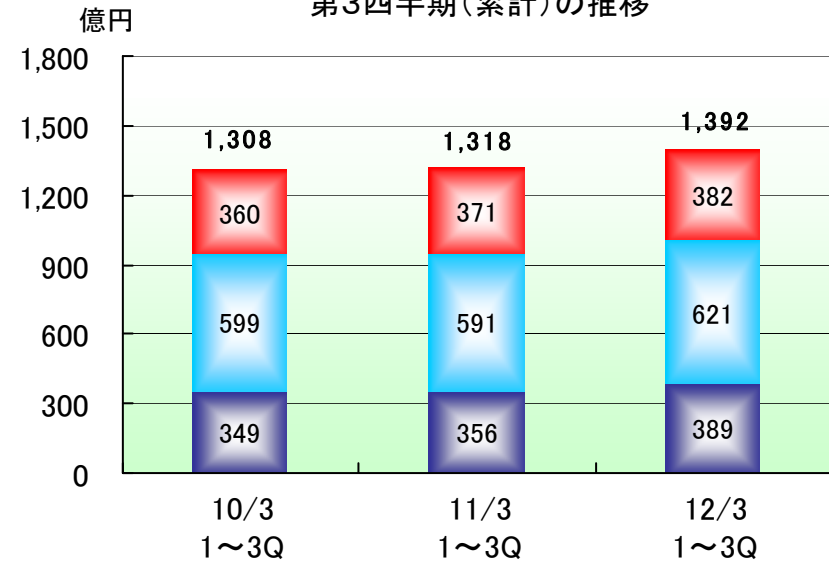
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

第3四半期(3Q)の推移

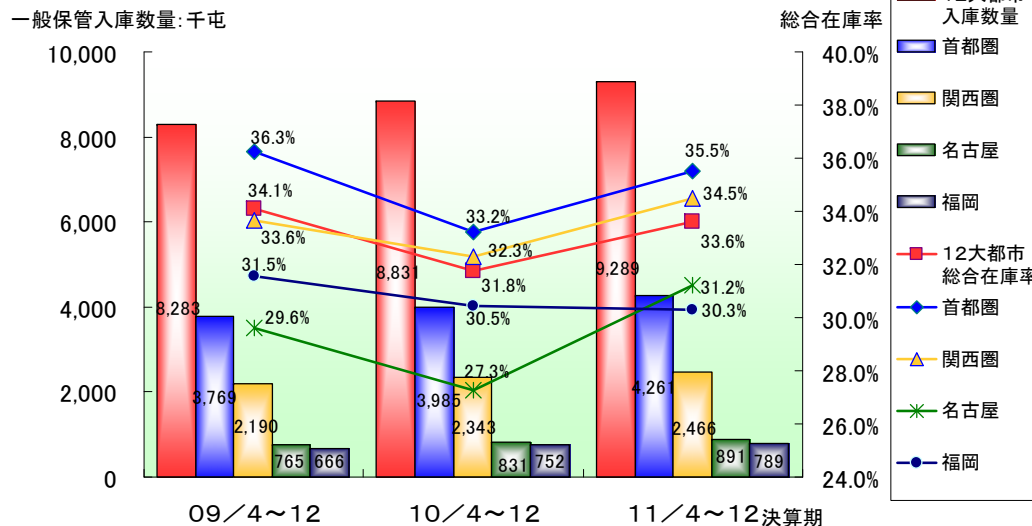


第3四半期(累計)の推移

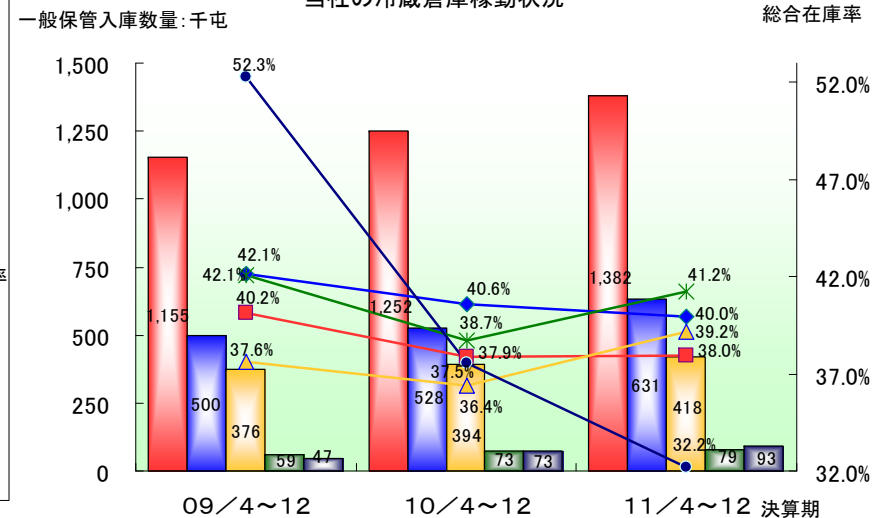


冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

業界の冷蔵倉庫稼働状況



当社の冷蔵倉庫稼働状況



注: 在庫率は冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。